

## わたしにもできること

あの夜、私がお母さんと小学校に避難してきた時、そこにはたくさんの方がいた。後で聞いてみると、1500人くらい避難していたそうだ。朝になり、避難所になった体育館の中に、人が歩く通路をつくることになった。改めて体育館の中を見回してみると、いろいろな人がいた。おなかが大きなお母さん、生まれたばかりの赤ちゃん、足が不自由で一人では歩けない方、お年寄り、具合の悪そうな方。確かに私のように物をよけて歩いたり、「通して」と声をかけたりできる人ばかりではない。

「よし。通路をつくろう。」

みんな、立ち上がった。赤ちゃんのいるおうちの方は、ステージわきの小部屋に。足の不自由な方は、トイレに近いところに。具合の悪い方は、すぐ連絡が取れるように本部の近くに。

通路をつくったことを機に、いろいろなことが少しずつ動き出した。

細かいルールも少しずつ決まり元気な人はトイレ掃除を始めた。PTAの方は、毎日ごはんを用意し配っている。6年生のお姉さんたちも手伝い始めた。

（みんな、自分にできることを精一杯やっている。わたしにも、できる

ことはないだろうか。）

まわりを見回してみた。交代でしか横になれないくらい人があふれている体育館。

となりの、体がしんどそうなおばあちゃん。一方で、騒がずにはられない小さな子ども。私にもできることが見つかった。

「おばあちゃん。こっちも使って横になっていいですよ。」

となりのおばあちゃんは、びっくりしたように私の顔を見た。そして笑顔になった。

「ありがとう。体がつらかったんだ。」

私も笑顔になった。

「お母さん、小さい子たちと、そこで遊んでいるからね。」

お母さんがびっくりした顔で見上げている。

（みんなと生きている。この地域で生きている。みんなとがんばろう。）

そんな思いが自然にわきあがった。

（平成25年 はなむら特集号 ～伝えよう、明日の子供たちに～）

